

平成28年度 見附市英語・外国語活動部 活動報告

部長 石井 哲子

1 研究主題

小中連携と英語・外国語活動の動向について

2 研究の概要

中学校の英語教科書の改訂をふまえて、小中の連携と今後の英語・外国語活動の動向についての理解を深める。

3 研究の実際

見附市の英語・外国語活動部では、中学校の英語教科書の改訂に伴い、小中の連携と今後の英語・外国語活動の動向を研究主題とし、各中学校区単位での連携を進めている。今年度は、中学校の英語教科書の改訂をキーワードにし、学校図書株式会社の編集部の嶋本誠様による講演を中心に研修を進めた。

研修会前半では、今回の教科書改訂は「小中の接続に力を入れたもの」であるということのポイントにして進められた。

①「インプット」中心の学びから「インプット→アウトプット」という流れのある学びになっている。

(アウトプットのために、フォニックスの活用も重要である。)

②listening→writing→speaking のスモールステップで構成されている。

(speaking の中には、質問したり感想を伝えたりする内容も含んでいる。)

③中学校1年生の教科書には、小学校での学びを喚起させる学習内容が取り込まれている。また、話題も身近なものが選ばれている。

後半は、小学校で使っている Hi, friends! の中に登場する題材や主な表現が、学校図書発行の中学校英語教科書「TOTAL ENGLISH」の中でどのように扱われているのかを、対照表をもとにして理解を深めることができた。

4 成果と課題

今後の外国語活動の動向として、これまでの Hi, friends! の内容が小学校3・4年生まで下りてくることになる。それと同時に、中学校の学習内容が小学校の5・6年生に下りてくることになっている。慣れ親しむ外国語活動から教科としての習得が目的となり、大きな変化が見られることになる。

今回の研修を通して、小中で互いに、学習している内容が中学校のどのような学習場面で活用されるのか。また、小学校での学びの上に、現在の学習が積み重なっているということ、具体的に学ぶことができたことが成果である。今後も、このような学びのつながりを意識しながら研修を進めていく必要がある。